

東北経産局の異分野連携計画

液状化軽減の新工法

枝豆選別装置

県内2事業認定

東北経済産業局は3日、土木建築の茜谷酒田市)などによる地盤の液状化を軽減する新工法と、生産用機械のガオチャオエンジニアリング(鶴岡市)などの枝豆選別装置の事業化を、それぞれ「異分野連携新事業分野開拓計画」に認定した。さらに同局と東北農政局は同日、「農商工等連携事業計画」に米油の高付加価値化に向けた三和油脂(天童市)などの取り組みを認定。いずれも県内外の企業・団体と連携し、国の助成などを受けて新たなビジネス展開を図る。

「農商工連携計画」も1事業

液状化軽減の新工法は茜谷が開発。地盤を補強シートと防水シートで挟み、透水管で地下水と砂を分離排水する仕組みだ。地下水を分散させることで地震被害を抑制するほか、路面の長寿命化や凍上災防止にも

つながるといふ。情報通信関連のライセンサーズ(仙台市)が総代理店として資材管理や物流などで協力。道路や駐車場のほか、宅地にも販路を広げる考えだ。

枝豆選別装置は組み込み



技術を用いて開発。マンパワで行われる枝豆の変色や未成熟などの判別作業の

高精度・省力化を図る狙い。ガオチャオエンジニアリングが全体コーディネーターのほか、制御分野を手掛ける。装置設計でKMシステム工房(鶴岡市)、高精度な画像処理技術でソフト開発のエクセルソフト(山形市)とそれぞれ連携する。

米油の高付加価値化は、

三和油脂が低アミノコースの巨大胚芽米「金のいぶき」を原料に米油を開発。契約農家の確保・拡大など米ぬかの安定調達にJAてんどう(天童市)とJAこまち(秋田県湯沢市)が取り組む。機能性成分を多く含む

新たなビジネス展開を図る県内企業に東北経済産業局などから認定書が交付された

米油で付加価値を高め、普及拡大により休耕田の有効利用につながる考えだ。さらに三和油脂は精製による副産物の脱脂ぬかでサプリメントなどの加工食品開発も手掛ける計画。

この日は県庁で認定書の交付式が行われた。計画認定により、試作品開発や販路開拓に対する国の助成のほか、専門家のアドバイスや融資の優遇措置などを受けられることができる。